

「守口市下水道事業経営戦略（案）」 意見の内容及び本市の考え方

	ページ	意見	本市の考え方
1	10	・マンホールトイレについて	学校施設ではなくなった旧橋波小学校跡地に設置したマンホールトイレについては、南部エリアコミュニティセンター体育室のマンホールトイレとして使用しております。
		既に統廃合となっている学校に設置されていたマンホールトイレはどうされましたか。	
2	18	・災害時の体制について	現状の職員で対応できるよう災害時の対応については、災害協定等を締結している民間事業者とも連携した体制を構築しております。
		埼玉県八潮市で発生した陥没事故が報告されています。現状の職員数で、地震などの大規模災害に対応できますか。また、現状の地震など自然災害等への体制は確立されていますか。	
3	18	・技術職員の継承や採用計画について	技術継承については、本市としても重要と考えておりますが、職員の技術だけでなく、国が推進しているPPP/PFI 事業などを活用や、AI・ロボット技術などの導入も検討しつつ、事業運営を図ってまいります。
		職員のノウハウの継承は必要です。技術職員の定期的な採用計画が必要と考えます。	
4	19	・他団体比較について	他団体比較については、流域下水道への接続区分や処理場数を1箇所限定するなど、本市により近い条件を設定し、新たな視点での比較ができるようにしております。 なお、前回比較した団体との比較結果についても掲載しております。
		他団体比較ですが、変更した要因は何ですか。今回の比較団体で、前回から残っているのは東京都三鷹市だけのようですが。	
5	29	・八雲ポンプ場の更新について	八雲ポンプ場の更新に関しては、更新用地を確保し建設する手法だけでなく、既存敷地内での更新など様々な手法を検討してまいります。
		寺方ポンプ場の更新工事の次は八雲ポンプ場だと思います。代替地は必要と思いますが、見通しはどうですか。	
6	30	・年数が経過した管渠の更新について	これまでの調査の中で、標準耐用年数を超えていた場合でも、健全な状態の管渠も確認されています。今後引き続き点検を実施し、その結果を基に更新計画（ストックマネジメント計画）を見直しながら必要に応じて更新を進めていきます。
		50年以上経過した管渠が119 kmあるということですが、更新の目途はどうですか。	
7	34～37	・計画期間及び前回策定分との乖離について	国による「経営戦略策定・改定ガイドライン」において、中長期的な視点から経営基盤の強化等に取り組むことができるように、「投資・財政計画」の期間は10年以上を基本とすることと記載されていることから、10年の計画としております。 前回の計画との乖離につきましては、策定時に更新計画（ストックマネジメント計画）の改定中であったことや、物価上昇等による建設改良費を正確に見込むことが難しかったためです。
		経済の先行きが不透明な中で、どのような事業を行うか、どう財源を調達するか計画を立てることは必要ですが、10年も先を見通した細かな計画が必要ですか。例えば、資本的支出では、前回計画の令和6年度及び令和7年度の値が乖離しているようですが、その要因はどこにあるとお考えですか。	
8	34～37	・企業債の金利について	企業債の金利については、現状より一定の上昇を見込んでおります。
		企業債現在高がここ数年150億円前後で推移していますが、令和17年度には265億円に達する見込みとなっています。金利が上昇局面で大丈夫でしょうか。	
9	38	・管渠の点検について	目視で確認できる腐食、クラック、侵入水などが把握できます。
		簡易的な点検でどこまでわかりますか。	

	ページ	意見	本市の考え方
10	39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセッション方式について</li> </ul> <p>コンセッション方式については、運営権を業者に渡すことだと聞いています。自然災害時やトラブル発生時の対応で問題があるように考えています。守口市が直営で責任をもって下水道事業を進めていくことが大切と考えています。</p>	<p>本市では、コンセッション方式に限らず、マーケットサウンディング等を通して本市に適した方式を検討してまいります。</p>